



[IMG 4418](#)

南伊豆町一條在住の山本はま子さん(60歳)は、高齢者から聞いた地域の歴史や昔の風俗を本にまとめる聞き書き活動に取り組んでおられます。山本さんが代表を務める「サークル・ききがきや」は既に4つの聞き書き集「知ってんけえ」を発行、今も第5集の準備中です。



[IMG 4434](#)

下田市出身の山本さんは50歳の時に学校事務職員を退職、夫の実家で野菜作りを始めました。そして農産品の出荷先である道の駅「湯の花」の理事長から聞き書きをやってみないかと誘われました。当時はとても自分にはそんな能力がないと断っていました。ところが、元気に畑仕事をしていた父親が9月に体調を崩し、稲刈りと祭りを見届けた10月にあっけなく他界してしまったことがきっかけで、まだまだ父から聞きたい事が山ほどあったことに気がきました。理事長の言葉を思い出した山本さんは聞き書きに挑戦することを決意しました。



[IMG 4416](#)



[3-2](#)

話を聞く相手は80・90歳台の地域のお年寄り、「皆さん懐かしそうに楽しそうに語ってくれます。そして皆さんそれぞれ地元が良い所だと自信を持っておられます。これまで地元の学校で働きながら、その良い所を認識できていなかったことにも気づかされました。また、聞き書きを始めたことで、あっと言う間に世界が広がり助けてくれる人が増えて本当に良かった。」とおっしゃいます。「しってんけえ」第2号は第18回日本自費出版文化賞・地域文化部門入選を獲得した他、地域研究者から貴重な歴史資料だと高い評価も受けているそうです。「知ってんけえ」は一冊 ¥ 1,500、道の駅湯の花で販売中、但し第3号は完売。



[IMG 4424](#)

山本さんは、先ず自分達が安心して食べられる有機野菜を育て、余った作物を直売所に出荷していましたが、珍しい野菜を育てることも生きがいの一つになっているそうです。先ずはキクラゲ(写真上)、出荷を待っている常連さんもいるそうです。



[IMG 4427](#)



[img45679863](#)

ササゲ(上写真)、一合撒くと一斗取れることから「一合一斗」とも呼ばれます。小豆の栽培が難しい南伊豆で代替品として代々受けつがれて来た在来種。



[IMG 4426](#)



[images](#)

自然薯、強い粘りのとろろ芋は古くから滋養強壯の元として親しまれています。山奥の自然の状態に近づけるべく畑に落ち葉を敷き詰めているのが山本さんの「やまちゃんち」ブランドのこだわりです。



[IMG 4429](#)



[kikuimo](#)

菊芋、余り人気のなかったこの作物、最近主成分がイヌリンで、[でんぷん](#)が殆どなく血糖値を下げることで見直され人気急上昇。



[o0560042012022806032](#)



[8-2](#)

陸(おか)のり、包丁で叩くとぬめりが出ます。天ぷらも美味しい。夏には数が減ってしまう葉物野菜の一つとして貴重です。



[IMG 4430](#)

ジンジャー、香りの素晴らしい切り花。



[s kulan-b \(1\)](#)

山本さんは直売所への出荷を始めて、朝素晴らしい野菜を持って出荷に集まる人達と会話を交わすようになり「自分よりずっと高齢の方々がとても元気な姿を見て驚きました。」

取材の準備を進める中で「聞き書き甲子園」なるものがあることを知りました。高校生が森や海・川の名人を訪ねレポートにまとめるものです。NPO「共存の森ネットワーク」が主体となり政府省庁も加わって実施されています。若い人がお年寄りから話を聞くというとても素晴らしい取り組みで山本さんも地元下田高校南伊豆分校の協力を得られたら、同じような取り組みをしてみたいと考えているそうです。

生きがい特派員 賀茂地区担当 福居通彦